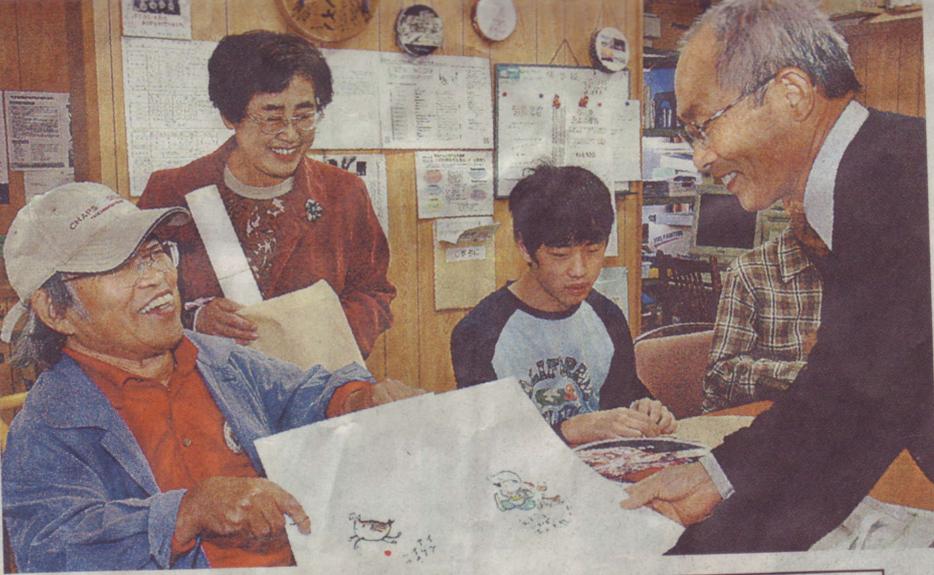


イノシシの絵



はらさん(左端)から紙太鼓用の原画を受け取る沖川施設長

三次の障害者作業所に書き下ろし

「紙太鼓作る」利用者に元気

はらさん贈る

詩画家のはらみちをさん(78)は広島市東区が、三次市十日市東の身体障害者作業所「かぜくさ」のために、来年のえとのイノシシの絵を書き下ろした。施設の利用者たちは絵入りの紙太鼓を作り、十二月中旬から、同市君田町の「はらみちを美術館」で販売する。今後、美術館が所蔵する「お母さん」をテーマにした絵なども原画にして紙太鼓を作る予定にしている。(余村泰樹)

子どものころから手足は、壁に飾った紙太鼓が不自由なはらさんは、見て「こんな素晴らしい「みんなの生きがいや社」のができるんだ。いいな会参加につながれば」とあ。利用者に「頑張ると無償で絵を提供した。愛 ってじゃね」と声を掛けらしいイノシシと、子どもと交流。原画を沖川吉弘もを背負った母が紙太鼓 施設長(66)に手渡した。を鳴らしながらイノシシ 「元気なはらさんに負けないようにしたい。ほと一緒に歩く姿を描いた のぼした絵の太鼓を早く一枚。それぞれ「イケイ く作りたい」と同市十日ケ イノシシ 一直線」 市西の佐々木和磨さん「ええこと いっぱい エト太鼓」とメッセージ (79)。はらさんは「体が不自由なみんなが心を込めて手作りした太鼓の響きが広がって、みんなの心温かさが伝わってほしい」と期待していた。

同施設は、三次どんちやん踊りに使う紙太鼓や野草茶などを作り販売。九日に訪問したはらさん

中国新聞

掲載